

日本酒で乾杯推進会議 「秋田大会」開く

国民文化祭とタイアップ。祝祭と文化の薫りに彩られたビッグイベント



第2部「秋田の酒を楽しむ会」のオープニング。佐竹敬久秋田県知事(写真左)の発声で参加者一同「日本酒で乾杯！」

「日本酒で乾杯推進会議」の秋田大会が10月11日の午後、秋田市で開催されました。同会議の地方大会開催は9回目、今回は、10月4日～11月3日まで同県下で開催された「第29回国民文化祭・あきた2014」とタイアップ。その関連行事として企画されたこともあり、まさに乾杯運動のテーマにふさわしい祝祭と文化の薫りに彩られた大会となりました。去る7月には県の乾杯条例も制定されるなど、乾杯運動が盛り上がりを見せる中で繰り広げられた、酒造業界総力のビッグイベント取材しました。



第1部「食文化シンポジウム」は、俳優の永島敏行氏の基調講演とパネルディスカッション



日本舞踊に和太鼓etc. アトラクションも盛りだくさんでした。



🌸 シンポジウム&パーティの2部構成で、秋田の豊穡な食文化を発信

「日本酒で乾杯」することで、日本文化、そして日本酒の素晴らしさをもう一度見つめなおそう！そんな願いを込めて日本業界が総力で取り組んでいるのが「日本酒で乾杯運動」。運動の中心組織となる日本酒で乾杯推進会議では毎年秋、東京での総会・フォーラムと並んで、県単位の地方大会を開催しており、地元の県酒造組合・酒造関係者と協力して、郷土の文化に根ざした独自の企画で「日本酒で乾杯」の全国普及に取り組んできました。



● 県内外から 1000 人を超える参加者

街中に国民文化祭の華やいだ気分が溢れる中で開かれた今回の秋田大会。第1部の「食文化シンポジウム」(14:00~17:00/会場は秋田アトリオン音楽ホール)は、俳優・永島敏行氏による基調講演(主催=文化庁・秋田県・第29回国民文化祭秋田県実行委員会)とパネルディスカッション(主催=日本酒造組合中央会/主管=秋田県酒造組合/日本酒で乾杯推進会議秋田大会実行委員会)、第2部の「秋田の酒を楽しむ会」(18:00~20:00/主催・主管=パネルディスカッションに同じ。会場は秋田キャッスルホテル)は秋田の地酒と食を囲んでの大饗宴、という充実したプログラムで、1000人を超える県内外からの参加者に、日本酒王国・秋田の豊穡な酒造&食文化を印象づけました。



街中、祝祭ムード

「秋田の食文化を全国に伝えて」永島敏行氏が基調講演

俳優業の傍ら長年、秋田県横手市で米作りに携わってきた永島敏行氏。「秋田の食は誇れる文化」と題した基調講演は、そんな秋田との関わりの中で育んできた秋田の食文化への思いを語り尽くした。この中で永島氏は「魚も農作物も豊富な秋田では、朝晩のお膳も他県ではあり得ないほど豪勢で、地酒もおいしい。慎み深い秋田の人たちは自慢しないが、そうした食文化をもっと全国に伝えてほしいと思う。私は晩酌する父の姿を見て酒のよさを覚えた。食は伝達であり、地道に伝える努力を続けてほしい」と、熱く語りました。



基調講演とパネルディスカッションの合間には、蔵人たちによる酒屋唄(写真左)と秋田舞妓の可憐な舞いでリフレッシュのひと時

🌻 「麗しき酒とは」秋田の食と酒文化をめぐりパネルディスカッション



楽しい話で盛り上がったパネルディスカッション「麗しき酒とは」

● 「日本文化を知らない日本人は世界の根無草に」

第1部「食文化シンポジウム」の後半には、民俗学者で100人委員会(各界著名人による組織)のメンバーでもある神崎宣武氏をコーディネーターに、酒食ジャーナリストの山本洋子氏、国際教養大学教授の勝又美智雄氏、秋田県知事の佐竹敬久氏、そして日本酒で乾杯推進会議の西村隆治運営委員長がパネル討論。「麗しき酒とは」をテーマに、秋田の郷土料理や食文化と日本酒の繋がりなどをめぐり楽しいトークを繰り広げました。

また、討論に先立って石毛直道代表(国立民族学博物館名誉教授)が挨拶し、「乾杯運動は、日本酒の杯を掲げることで日本の伝統文化を再認識するのが目的。和食のユネスコ無形文化遺産登録を機に世界の人々が日本酒に注目している中、日本人自身が日本酒と日本文化を知らないと、世界の根無し草になってしまう」と訴えました。



石毛直道氏



神崎氏 「秋田県は酒肴も豊富だし、日本酒ときっても切れない伝統文化財の宝庫でもあります。どうか、行事と食とお酒を大切にしてください」



山本氏 「秋田といえば秋田杉。樽やこうじ蓋として今も役立っています。ある意味、日本酒などの麹文化が秋田杉を守ってきたとも言えます」



勝又氏 「藁ずとで包んで檜山納豆など、秋田は納豆文化の発祥地と言われます。秋田の人はもっと地元の伝統食文化を自慢していいと思う」



佐竹氏 「秋田県には竿灯祭りなど17もの重要無形民俗文化財があるが、楽しみは直らいのお酒。直らいのために祭りをやっている感じですね」



西村氏 「推進会議の会員数は9月で約3万6千人。各地で乾杯条例の制定も進んでいます。せめて、お正月だけでも日本酒で乾杯を！」

🌸 第2部「秋田の酒を楽しむ会」★秋田の伝統文化を丸ごと堪能



大会のクライマックス「秋田の酒を楽しむ会」は、午後6時から秋田キャッスルホテルの宴会場でオープンし、日本酒造組合中央会・櫻井副会長の開会挨拶、金田勝年衆議院議員の来賓挨拶に続き、佐竹秋田県知事の発声で「日本酒で乾杯！」(1頁の写真)。会場では県内31蔵元がブースを並べて自慢の地酒をサービスしたほか、勇壮なナマハゲ太鼓や31蔵の杜氏全員による酒屋唄といったアトラクションも次々に登場。秋田の食材を使った極上の料理もふんだんに提供され、宴が進むにつれてヒートアップした参加者は、美酒と肴、そして芸能も合わせた秋田の伝統文化を丸ごと堪能しながら、笑顔いっぱい乾杯の杯を重ねていました(乾杯風景は次頁に)。



▲ 秋田県の食材を詰め込んだおつまみ弁当。このほか、県のオリジナル麺「あめこうじ」を使った料理やしよつる鍋など、秋田の名物が盛りだくさん。



◀ 「秋田県酒造組合の関係者はじめ大会の準備に携わった方々のご苦労に心から感謝します」(中央会・櫻井副会長)



◀ 「今宵は日本文化を愛する人が沢山。素晴らしい秋田の酒を嗜みしめて、皆さん國酒を愛してください」(金田議員)



▲ 31蔵の杜氏の皆さんが酒屋唄を披露



▲ 来年の地方大会を主催する石川県酒造組合連合会の関係者も参加。「地酒を愛する秋田の人々の気持ちをひしひしと感じました。石川県もがんばります」(中村会長、中央)



▲ 大迫力、なまはげ太鼓の実演
▶ 国民文化祭のテーマ曲「ぼくたちの未来」の紹介も



秋田の地酒で乾杯！



日本酒で乾杯推進会議 秋田大会
[2014.10.11 秋田市]



◀「国民文化祭の中でも、このイベントがいちばん。サイコーに楽しかった」「そのとおり！」



▲「山形県から来ました。日本酒で乾杯、大賛成」「日本酒は秋田県民の誇りです」



大会を終えて - 県の協力、参加者に感謝 秋田県酒造組合・小玉真一郎会長(談)



大会の開催に向けて2年前から準備を進めてきたが、大会に合わせて乾杯条例の制定を実現したいと考えて全力で取り組んだ。幸い、この7月に県レベルでは全国で7番となる条例(「秋田の酒による乾杯を推進する条例」)が制定

され、開催に間に合わせることができた。また、国民文化祭とのタイアップということで、佐竹知事はじめ沢山の方々に様々なご協力をいただいた。県内外からお越しいただいた参加者の方々も含めて、心から感謝申し上げます。これからも全力で日本酒での乾杯運動の普及に取り組んでいきたいと思います。



▶「最近、日本酒のよさがわかってきたの」「飲みきれないぞ」



▲「日本酒をもっと世界へ！」「すごいお酒だもんね」